

別紙様式 1

令和 3 年度使用中学校用教科用図書の採択結果等について

採択地区名 府中市

種 目	発行者	採 択 理 由
国 語	光村図書	<ul style="list-style-type: none"> ・第 2 学年において「ALT のマシュー先生に、町の散策コースを提案」「全ての中学生は、ボランティアをすべきである。」など、話し合う活動において地域や自分たちに目を向けたテーマを設定している。 ・全学年巻末に『「学習の窓」一覧 豊かに表現するために』があり、話し合いでのポイントが整理されている。 ・それぞれの題材末にある「学習の窓」が巻末に一覧であり、指導内容が系統立てて整理されている。 ・小中のつながりが考えられており、スムーズに移行できる配慮がある。 ・主体的に学習に取り組むための工夫として、社会的な問題をテーマとして扱っているのがよい。 ・「説得のある構成を考えよう」では、自分の思いを発信し、スピーチする力を高めることに有効である。
書 写	光村図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「目標」と明記して、小单元ごとに目標が示されている。 ・「学習を振り返る」では、評価の観点を示し、観点に沿って自己評価を記入する欄が記載されている。 ・「②確かめよう」では、朱墨で筆使いを示し、ポイントとなるところに、写真と言葉で筆使いを示している。半紙原寸大の教材文字の横に、朱墨と薄墨で筆使いが示されている。 ・第 1 学年では「【学校生活】目標を書こう」として、「学級スローガン」「個人目標」などの教材が設定されている。 ・別冊の書写ブックがあり、評価の視点と、実際の自らの学習活動を関連付けて自己評価をすることができる。

<p>社会 (地理的分野)</p>	<p>東京書籍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・領土をめぐる問題をかかえる島々について、地理的な特色がつかめるように地図・写真が見開きで示され、理解しやすい。 ・第4章(最終章)「地域の在り方」の「身近な地域の課題を見つける」では、17の持続可能な開発目標(SDGs)の1つ「住み続けられるまちづくりを」に関連させ、グローバルな視点を持たせ取り組むことができる。 ・世界の各州の導入部分にイラストを使用した地図や自然や生活に関する写真を掲載し、日本の各地方の導入部分には各地方の「探究課題」に関連した写真を掲載することで、学習する地域のイメージを持てるよう工夫している。 ・世界の各州・日本の各地方の学習の終結部に、「ウェビング」「トゥルーミン図式」といった多様な思考ツールを活用して学習内容を考察する「まとめの活動」を記載している。 ・探究的な学びの流れがつかみやすい構成である。 ・思考ツールを効果的に使えば有効なものになる。 ・資料の提示によって、子供たちがスムーズに学習に入れたり、自分ごととなったりする工夫がある。
<p>社会 (歴史的分野)</p>	<p>東京書籍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き2ページにわたり、絵図と人物や歴史的事象のイラストを用いた年表を掲載し、資料の読み取りやグループ学習について示している。また、キャラクターの問いにより、章及び各節の学習課題を導くよう構成している。 ・小中一貫教育の視点として、「第1章 歴史のとびら」の「1節 歴史をとらえる見方・考え方」に小学校の学習要領で示された42人の人物や文化財、出来事を振り返る活動が示されており、各単元(章)の導入部でも、小学校社会科で学習した内容を資料や年表で振り返る活動が示されている。 ・「地域の歴史を調べよう」で「広島復興と平和への思い」というタイトルで、被爆地である広島の戦後の復興について調べる学習が設定されている。 ・「中世とはどのような特色を持つ時代だったのでしょうか」という問いに対して、「政治」「国際関係」「社会・経済」「文化」の四側面から、自分の考えを文章にまとめる設定になっており、思考ツールに考えをまとめるように促している。意見交換や、自分の考えの修正の方法を示している。 ・小学校の学習内容を振り返る活動が示してあり、小中の学習のつながりが意識できる。 ・広島に係わる教材があり、生徒にとって身近に捉えることができる。

<p>社 会 (公民的分野)</p>	<p>東京書籍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動を例に、「2年前の学校でのトラブルについて考えよう」「1年前の学校でのトラブルについて考えよう」「現在の学校でのトラブルについて考えよう」という課題を、絵図で示している。 ・持続可能な社会の形成に関わる課題例を掲載している。中学生が取り組んでいる身近な事例などから、より興味を抱かせている。持続可能な社会を実現するための探求の方法を掲載している。「持続可能な社会」形成のために解決すべき課題を5つのテーマの中から設定し、資料を集め、アクションプランの形でレポートにまとめさせている。 ・『スキルアップ』『みんなでチャレンジ』として、計30項目を設定し、個人・グループの活動が提示されている。「政治参加をしてみよう」では、身近な地域の課題の把握・解決を通して考えを深めるとともに、まちづくりに参加する意識を育てられる活動が記載されており、効果的である。 ・まとめの活動として、「導入の活動では、長く続けられるコンビニエンスストアについて、場所の面から考えました。A市、B市、C市から1か所選んで、あなたが出店した店で売る弁当について(1)～(6)を考えましょう。」とし、ウェビングを使って消費者のニーズを考え、商品開発の方針を立て、企画を発表し合い、「効率」や「公正」、「希少性」、「持続可能性」の観点から見て企画書をまとめる活動が記載されており、思考を深めるのに有効である。 ・福山市神辺町が題材となっており、府中市の子供にとってまちづくりを通して政治を身近に感じることができる。 ・具体的に選挙の流れが示されており、わかりやすい。 ・フォントが読みやすい。 ・自分事として、具体的に政治の仕組みを学べるような活動がある。
------------------------	-------------	--

<p>地 図</p>	<p>帝国書院</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巻末の「日本の領土とそのまわりの国々」に近隣諸国を含む地理的環境を記載しており、歴史的経緯を踏まえた日本の領域を正確に把握することができる。 ・ 世界の各州には、自然環境や生活・文化・産業などのイラストを配した鳥瞰図を記載しており、地域的特色を視覚的にとらえることができる。 ・ 中国・四国地方の資料を記載しており、地域学習が行えるよう工夫がされている。 ・ 各地図について、さまざまな縮尺で記載している。 ・ 「地図活用」や「学習課題」を記載しており、社会的な見方・考え方を働かせた学習活動の例を示すことで、主体的・対話的で深い学びに近づくことができる。 ・ 大きく印刷されているため、経度、緯度の数字が見えやすい。 ・ 二次元コードが記載されており、授業だけでなく家庭学習でも活用できる。 ・ 色が鮮やかで、小学校の色彩に近く、中学校1年生に進級したときに手に取って見やすい。 ・ シンプルな表記で地図として活用しやすい。
------------	-------------	---

<p>数 学</p>	<p>東京書籍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「例」ではつまづきやすい問題を取り上げたり、問題を解くための見通しを「考え方」として示したりしている。「例」と類似する「問」には◆印を付け、「例」を参考にできるようにしている。また、典型的な誤答を「間違い例」として取り上げている。 ・日常生活における問題場面を取り上げている。学習内容を深めたり広げたり、日常生活や他教科の学習に活用できる題材を取り上げている。社会で数学を活用している人を紹介した読み物を載せている。また、その人の仕事に関わる課題を取り上げている。 ・広島県に関する問題や写真が掲載されている。 ・「データの比較」では、問題場面が具体的にイメージできるように示されている。 ・各学年の巻頭でノートづくり方を示している。また、各学年で生徒のレポートを例示し、書き方を説明している。 ・課題発見解決をしていくための見通しとして、各単元の最初に問題提示と、解決する時に活用できる汎用的な型の提示がある。
<p>理 科</p>	<p>東京書籍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の終わりに「つながる科学」、「章末」、「世界につながる科学」、「学習内容の整理」、「確かめと応用」が設定されている。大切な用語の復習から応用力の習得までサポートしている。 ・学習内容に関して、発展的な内容として、日常生活や身近な自然現象との関連を図った読み物資料を掲載している。 ・単元末問題が豊富に準備されており、基本問題と活用問題が設定されている。身近な生活に関係した発展的な内容や科学史を漫画で紹介しており、興味・関心を高める内容になっている。 ・巻頭に目次と関連させて2次元コードやURLを示し、インターネットを活用する場面を掲示している。安全のための注意や学習の過程を示すマークが一覧で示されている。 ・巻頭の「考えが異なっていたら、考えを言葉にして議論しよう」「伝わる言葉にしよう 発表のしかた」で話し合い活動の仕方が例示されており、巻末に「学びを広げよう自由研究」で科学研究の取り組み方を示している。 ・タブレットの授業に対応した縦長の教科書は斬新である。 ・中身の配列も、流れが縦に配列され見やすいと感じる。 ・二次元コードが、空間認識など、教科書と黒板だけで理解するのが難しいときなどに活用でき、有効である。 ・課題発見・解決学習をする上で、ポイントとなるところを、イラストの中の吹き出しで示しているのは、生徒にとってわかりやすい。

<p>音 楽 (一般)</p>	<p>教育出版</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習のポイント、楽譜、歌詞、作者の写真や紹介文等を掲載している。「A Message for you」や曲のゆかりの地、歌詞に関係のある情景の写真等を掲載している。 ・ キャラクターの吹き出しを通して、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えさせる工夫がある。 ・ 各学年とも、目次の次のページで主要教材について「学びのユニット」として音楽を形づくっている要素との関連を示すとともに、第1学年及び第2・3学年上では、「どんな特徴があるかな？」のページで、音楽を形づくっている要素の内容を掲載している。 ・ 共通するところや、それぞれのよさなどについて、発表し交流してみよう。」と示し、音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことなどの様々な意見を共有する場面の設定をしている。 ・ 「くらべてみよう」や「深めてみよう」など、学習の視点やねらいが書かれていて、学習の流れがつかみやすい。 ・ 自己評価で、「気付いたこと」「みんなで考えたこと」など書けるような工夫がある。
<p>音 楽 (器楽合奏)</p>	<p>教育出版</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各楽器の各部の名称、姿勢とかまえ方、奏法等を写真や図で示している。三味線の三線譜や箏の数字譜を取り入れている。楽曲数が多く、多彩な曲に触れることができるようになっている。 ・ 各楽器の「Let' s Play」「Let' s Try」で楽曲を演奏し、それぞれの楽器を使った創作活動へとつながっている。 ・ 「合わせて演奏しよう」で取り上げている曲について、曲名の下に、音楽を形づくっている要素についての指導の工夫を示している。 ・ 「速度や強弱等は、グループで話し合って確認しておきましょう。」「グループごとに発表してみよう。」と示し、表したい思いや意図を言葉で伝え合う場面の設定をしている。 ・ いろいろな楽器が扱われており、生徒が選択ができることで、主体的な学習につながる。

美術	光村図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「鑑賞」と「表現」のマークを示して、それぞれの目標の達成に向けた活動の筋道を具体内容として示している。 ・一つの題材の中で表現と鑑賞のアイコンを掲載し、相互に関連した学習の流れを示している。 ・美術1では、「美術って何だろう?」「美術で学ぶこと」というページを設け、小中のつながりを意識したり、美術を学ぶ意義や目的を確認したりしながら、生徒が3年間の学びを見通し、これからの学習に期待感がもてるよう工夫している。 ・表現のほぼ全ての題材に、作品の発想を練るための具体的な手立てと、「みんなの工夫」と題して、2名の生徒の学習活動の過程を分けた写真を作者の言葉とともに紹介している。生徒目線で作られており、つまずきのある子供の参考になる。質問をしながら授業を進められる点は、子供たちの学びに寄り添う内容である。 ・「ノートやスケッチブックを活用しよう」や「学習を支える資料」に「発想を広げる」のページを設け、言語活動例を複数示している。 ・鑑賞のポイントが発問の文章で記載されている。 ・鑑賞・制作という流れは主体的に学ぶという点でよい。 ・写真(作品数)等、目から入る情報が多くあるのがよい。
保健体育	東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する学習内容が、他のページにあることを示すマークを入れ、各単元のつながりを示している。 ・すべての単元において発展的な学習のための資料が記載されている。 ・「見つける」の本文中に学習内容に関連した写真やイラストを掲載している。 ・「活用する」で、言語活動に係る学習活動について記載している。思考・判断・表現したことを書くための記入スペースを設けている。 ・課題解決に向けて、多彩な資料や動画が充実している。 ・他教科との関連や保健の他学年の学習内容との関連が示されており、カリキュラム・マネジメントの視点において有効である。 ・巻末資料が充実している。

<p>技術・家庭 (技術分野)</p>	<p>東京書籍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な用語のうち、重要語句はゴシック体で表記している。 ・ 各内容の最初のページ見開きで、左ページに「技術の見方・考え方」、右ページに「発見！技術の最適化」を掲載し、身近な製品の具体例とともに、既存の技術の工夫について示している。また、各内容第1章の最後に、「チェック技術の見方・考え方」を掲載し、気付いた技術の見方・考え方について、まとめることができるようにしている。 ・ ものづくりの最適化など、ガイダンスに重きを置いている。 ・ 生活や社会をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする学習活動として、「活動」、「調べてみよう」、「やってみよう」、「考えてみよう」、「話し合ってみよう」で示されている活動を取り上げている。 ・ 小学校や他教科との関連の記述があり、カリキュラム・マネジメント等を有効に進めやすい。 ・ 数は少ないが、二次元コードの内容が大変充実している。 ・ 情報モラルにかかわる内容がわかりやすい。
<p>技術・家庭 (家庭分野)</p>	<p>教育図書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各内容とも、項目ごとに、「めあて」マークを付け、目標を1つ又は2つ示すとともに、「キーワード」マークを付け、関連する語句を示している。 ・ 「選択 生活の課題と実践～生活をよりよくしよう～」として、生活の課題と実践のポイント、学習の流れ、実践例を示している。 ・ 中学校の各教科等の学習内容や小学校の各教科等の学習内容との関連、および家庭分野の他の章などに関連する内容があるものについては「リンク」マークを示している。各教科等の学習内容については、教科名、単元概要を示している。小学校の各教科等の学習内容との関連する内容があるものについては、掲載ページと内容を示している。 ・ 言語活動を取り入れた学習の示し方が13種類あり、これらを上手に使ってやる気や深い学びにつなげることができればよい。

<p>英 語</p>	<p>東京書籍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Unit では、目的・場面・状況を意識し、5領域をバランスよく活用することができるようになっている。 ・ 既習文法が後の単元で使用されている。 ・ 単元冒頭に扉として、写真をもとに生徒とやりとりをし、題材内容への興味を高めるとともに、Unit 本文前に、文法の「目的・場面・状況」を表す音と映像を見て、「気づき」を促す Preview を設定している。 ・ 1学期で指導する Unit 1～5 では、小学校で扱った内容を網羅し、文法として整理しなおすステージとなっている。また、該当 Unit の見開きの最初は、小学校で習った表現を使う「話す」活動で導入を行う。 ・ 広島の前爆投下をモチーフにした生徒の心情にうったえるような題材を取り上げ、人権・平和や国際貢献などの道徳心を培うように配慮している。 ・ 巻末に、「学習を振り返ろう CAN-DO リスト」を設定し、各学年の5領域別の学習到達目標を Stage 1～Stage 3 まで示し、4段階で評価するようにしている。 ・ 各学期末に設定されている Stage Activity では5領域の統合を図った学習活動が設定されている。各 Unit で学んだ知識・技能を活用させながら、表現力を育成することができる。 ・ 学んだことを生かしながら表現活動を行う構成になっている。 ・ ユニット0として既習事項を学び直し、無理なく進めることができる。小中及び他学年のつながりを意識した構成となっている。 ・ 巻頭に SDGs の視点で「英語を通じて見直そう」という見開きのページがあり、実際にコミュニケーションを行う教科で取り入れていることに良さがある。 ・ 巻末に小学校で身に着けること、各学年で身に着けることがチェックできるようになっている。 ・ 単語リストが見やすい。
------------	-------------	--

<p>特別の教科 道徳</p>	<p>日本文教 出版</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見開き2ページに、4つの視点ごとに、1年間に学ぶ内容項目をイラストとともに示すなどして、学習の見通しを持たせている。 ・教材の後に「学習の進め方」のページを設け、どんな体験を通して何について考えるのかを分かりやすく示している。 ・扉ページ『『いじめ』と向き合う』を設定し、いじめを直接的・間接的に扱った教材とコラムをユニット化し、年間で複数配置している。 ・社会に開かれた教育課程の視点として、地域の歴史から、未来につなげていくために郷土との向き合い方を考えさせるようにしている。 ・目次及び教材名の右横、別冊「道徳ノート」の教材名の右横にマークを使い、「問題解決的な学習」や「体験的な学習」を扱う教材を示している。 ・教材の終わりに「学習の進め方」のページの「学習を深めるヒント」などで効果的な議論の方法を示している。 ・別冊を使って、テーマに沿って振り返りが書きやすくなっている。 ・生徒が自分たちの地域の魅力を発見し、発展に尽くそうとする意欲を育むことができるような配慮がある。
---------------------	--------------------	--